

# 1 構文イディオムと one's way 構文

## ● 構文イディオム

英語学習者は、kick the bucket (死ぬ) や spill the beans (秘密を漏らす) のような**句イディオム (phrasal idiom)** はそのままの形で暗記する必要があり、kick や spill をそれぞれ別の動詞に代えるとイディオムとして成立しなくなる。一方で、**構文イディオム (constructional idiom)** の一種とされる次のようなものがある。

(1) a. Sally made her way into the ballroom. (Goldberg 1995: 204)

b. Mary danced her way through the park. (高見・久野 2002: 81)

c. Bill belched his way out of the restaurant. (Jackendoff 1990: 211)

この構文イディオムは **one's way 構文 (one's way-construction)** と呼ばれ、one's way の部分が固定されているが、句イディオムとは異なり、動詞の部分は様々な動詞に代えることができる。

## ● one's way 構文の特徴と「困難性」

Goldberg (1995) によると、one's way 構文の形式は、[NP V one's way PP] である。この構文の統語的特徴としては、(1a) の make のように他動詞でも、(1b, c) の dance や belch のように自動詞でも生起できることや、one's way は常に単数形であることなどがあげられる。また、意味的特徴としては、動詞には本来移動の意味が含まれない場合であっても、文全体の解釈として移動の意味が生じ、その移動には「困難性」が伴うことが一般的であると言われている。(1a) では、「誰もいないダンスパーティ会場に入ってしまった」という意味では使われず、「人混みやその他の障害を通して移動した」という意味になる。その「困難性」の出自については、Omuro (2003) が考察している。Omuro (2003) では、make one's way の「困難を伴いながら進む」という意味は、文字通りの「道をつくる」という意味から少しずつ意味が変化し、イディオムになったと述べられている。

(2) a. I made a way to the top.

b. I made my way to the top.

(2) の動詞 make は他動詞であり、「道をつくる」という文字通りの意味で子供は何の困難もなく (2a) を獲得できる。同様に、文字通りの意味で (2b) も子供は何の困難もなく獲得できる。しかし (2b) のように、自分が自分自身の道を作ったときには、自分がその道を進むという語用論的な含意によって生じた意味が加わり、道をつくることには困難が伴うことが予想されるので、make one's way には

「困難にもかかわらず進む」というイディオム的な意味が生まれたのだと Omuro (2003) は主張している。

### ●one's way 構文に現れる様々な動詞

one's way 構文は非常に生産性が高いことで知られている。Omuro (2003) のコーパス調査によると、他動詞の *make* と *find* が one's way 構文で使用される高頻度動詞の 1 位と 2 位である。その他にも興味深い様々な動詞が生起することを以下の様な他動詞の例からみてみよう。

(3) He pushed/elbowed/kicked his way through the crowd.

(3) では押したり蹴ったりして群集の中を進んでいくことを表しているが、実際に押したり蹴ったりしているものは目的語の *way* ではなく「群集」である。統語構造上の目的語と意味上の目的語にずれが生じている例である。次に、自動詞が生起している例を観察しよう。

(4) a. Alice Slade inched her way apologetically into the room.

b. Lisa swam her way to three gold medals.

それぞれ影山・由本 (1997: 177) と高見・久野 (2002: 81) で論じられている例であるが、*inch* や *swim* のような「移動の様態」を表す動詞が現れている。「徐々に移動して部屋に入っていく様子」や「泳ぎながら進んでいく様子」が表されている。一方で以下の (5) のように、*go* や *come* といった「移動の様態」がまったく含まれていない移動動詞はこの構文に生起することができないといった性質がある。

(5) \*He went/came his way to the bank.

また、次の例では「移動」の意味とはまったく関係ないような自動詞が現れているが、構文全体では「移動」の意味が生じている。

(6) John yelled/shouted/moaned his way down the street.

高見・久野 (2002: 98) によると、(6) は「ジョンが叫んだり、うめいたりしながら通りを徐々に移動している様子」を表している。

以上のように、構文イディオムである one's way 構文は句イディオムと異なり、様々な動詞が生起可能であることがわかる。

(阿部 明子)